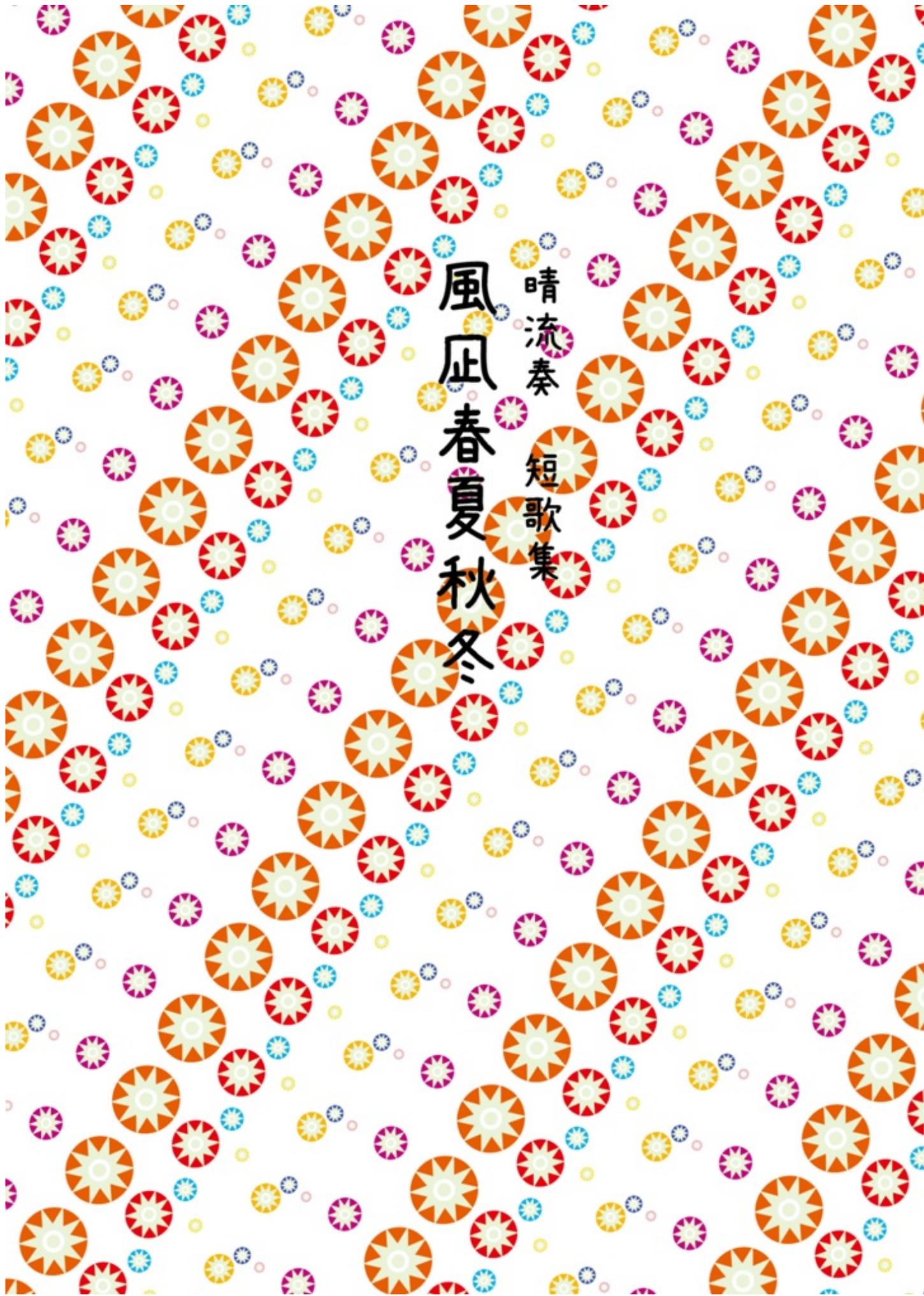


風
瓜
春
夏
秋
冬

晴
流
奏

短
歌
集



こんにちは。

どれみふあそらいろ歌人 晴流奏と申します。

誰にでも取って貰える歌集を目指しこの度フリーペーパーを作ってみました。今回は四季の移ろいを静かな心で詠んだ歌を集めてみました。ふとした日常の隙間に読んで頂けたら幸いです。難しい事は何も言えない私ですが、短歌という一つの表現方法は大好きです。歌を通して色々な人と出会いたい。そんな想いを込めつつこの文章を書いています。こうして出会えたのも何かの縁。名前だけでも貰えて貰えたら嬉しいです。

空蝉の出会いに感謝していますあなたの空は何色ですか？

晴流奏

春
短
歌

満開の桜の下でポーズ決め笑顔の君に舞う花吹雪

先駆けて散りゆく花の清しさよ春風に乗る散る満ちる

懐かしい風の香りがしたもので南の窓を開けてみました

何処からか桜の花弁迷い込むさつき掃除をしたばかりの部屋

澱む水咲かせる花は赤々と小さな鉢に浮かぶ睡蓮

夏
短
歌

縁側で一羽気ままに水遊びこの文鳥の主は何処

色付いたトマトをもげば青々と夏の香りのうつる手のひら

炭酸の気泡の中で笑み浮かべ父の手渡すお祭りラムネ

かき氷溶けゆく夏に君と見たやぐら太鼓の赤き提灯

潮風と溶けたメロンのかき氷戻れぬ過去は遠く手を振る

秋
短
歌

木々の葉を叩く夜明けの通り雨静かな秋の足音を聞く

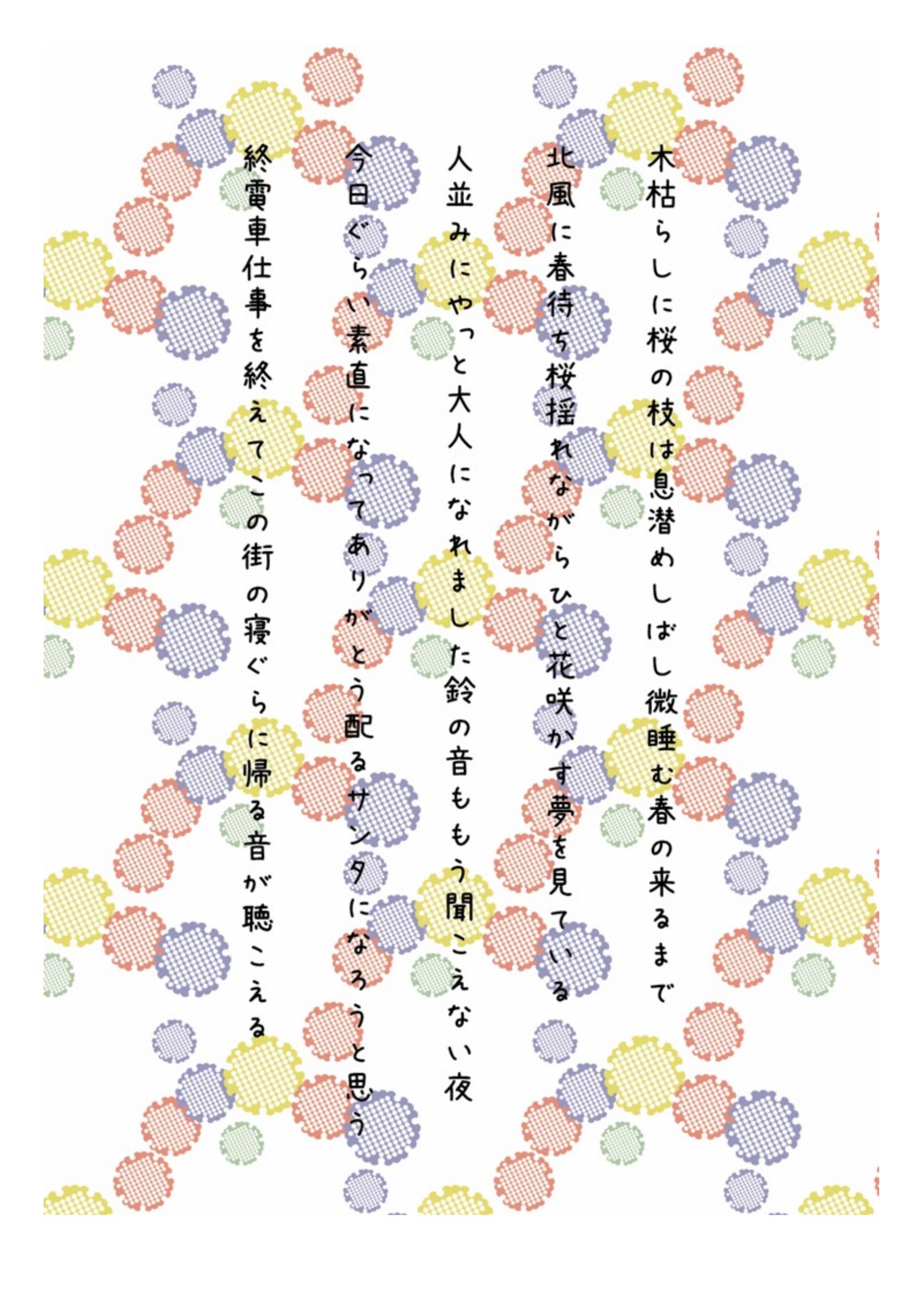
木漏れ日の差し込む窓辺に揺れる影静かに落ちる柿の葉二枚

雨音の近づく程に染み通り窓に渡されて香る晩秋

銀杏の葉役目を終えてポリ袋いっぱいの秋色にさよなら

窓辺から夜気は滴り変わり行く季節の背中ばかり見ている

冬
短
歌



木枯らしに桜の枝は息潜めしばし微睡む春の来るまで

北風に春待ち桜揺れながらひと花咲かす夢を見ている

人並みにやっと大人になれました鈴の音ももう聞こえない夜

今日ぐらい素直になつてありがとう配るサンタになろうと思つ

終電車仕事を終えてこの街の寝ぐらに帰る音が聴こえる

風凧春夏秋冬

<http://p.booklog.jp/book/27612>

著者 : harurukanade

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/harurukanade/profile>

発行所 : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/27612>

ブクログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/27612>

